

令和3年8月 鉄道構造物等設計標準・同解説 トンネル・開削編

付属資料：鉄道構造物の建設等に用いる掘削土留め工設計指針 正誤表（第3報）

	頁	章, 項	誤	正
	308	1.1 解説	関連する法規等の主なものは、「開削標準」に示すとおりである。	関連する法規等の主なものは、「トンネル標準（開削編）」に示すとおりである。
	318	3.1.3 解説	調査の詳細については、「開削標準」を参照するとよい。	調査の詳細については、「トンネル標準（開削編）」を参照するとよい。
	320	3.1.4 解説	周辺環境の調査は、「開削標準」を参考にして実施すればよい。	周辺環境の調査は、「トンネル標準（開削編）」を参考にして実施すればよい。
	342	4.4 解説	粘性土の場合 $\bar{p}_b = K_b (\sum \gamma_{\text{a}} \cdot h)$ (解 4.4-9)	粘性土の場合 $p_b = K_b (\sum \gamma_{\text{a}} \cdot h)$ (解 4.4-9)
追加	346	4.5 解説	解説図 4.5-6 に示す方法 ³⁾ があるので参考としてよい。	解説図 4.5-6 に示す方法 ¹⁾ があるので参考としてよい。
	346	4.5 解説	解説図 4.5-6 建設用重機等が土留め壁に近接する場合の側圧の検討例 ³⁾	解説図 4.5-6 建設用重機等が土留め壁に近接する場合の側圧の検討例 ¹⁾
追加	347	4.5 文献	3) 土木学会：2016 年制定 トンネル標準示方書 [共通編・同解説] / [開削工法編]・同解説, 2016.8.	(削除)
	359	5.2	原則として「開削標準」に基づいて,	原則として「トンネル標準（開削編）」に基づいて,
	359	5.2 解説	原則として「開削標準 第II編 6.2 地盤」による	原則として「トンネル標準（開削編） 第II編 6.2 地盤」による
	373	6.2.3 解説	$\frac{W}{F_1} + \frac{C_1}{F_2} + \frac{C_2}{F_3} \leq U$ (解6.2.3-1)	$\frac{W}{F_1} + \frac{C_1}{F_2} + \frac{C_2}{F_3} \geq U$ (解6.2.3-1)
	379	6.3.1 解説	曲げモーメントに 1.2 を乗じ, $\Sigma M_b = 1.2 \Sigma M_A$ (根入れ先端位置を支点)	曲げモーメントに 1.2 を乗じ, $\Sigma M_b = 1.2 \Sigma M_A$ (n-n 点を支点)
	379	6.3.1 解説	解説図 6.3.1-3 自立式土留めの根入れ長 凡例 X: 土留め先端から土圧変化点までの距離 (未知数)	解説図 6.3.1-3 自立式土留めの根入れ長 凡例 X: 土留め先端から側圧変化点までの距離 (未知数)

以上